所ニヨレバ2例ニ於テ死ノ轉歸ヲ取ツテオル。即チ Weichert ハ轉移性「エプウリス」ノ1例ヲ記載シ61歳ノ患者テ「エプウリス」ト右側身體麻痺ヲ確定シ腫瘍ノ摘出後惡疫質ニヨリ鬼籍ニ入ル、解剖ノ結果腦ニ腫瘍存シ顯微鏡的ニ原發性ト同様ナ齒槽肉腫ト確定サレタ、即チ肉腫性「エプウリス」ガ轉移シタモノデアアル。又 Pettitt ハ Dental Summary 誌上ニ何回モノ摘出手術ノ後ニ死ニ導イタ惡性「エプウリス」ニ就テ報告シテオル。

此腫瘍ノ手術的療法ハ腫瘍ノ根治的摘出デアアル。腫瘍ノ摘出ト「ラヂウム」ノ放射ノ混用療法ハ Kummer 及ビ Wolf ノ報告ニヨルトヨイ結果ヲ示シタト。

著者ハ彼ノ臨牀テ興味アル1例ニ就テ述テオル。ソレハ Anton Sch. ト云フ10歳ノ少年テ4ヶ月前左側下顎ノ兩乳白齒ガ強度ノ蝕蝕テ動搖シ疼痛ヲ惹起シタルガ故ニ拔去シテ貰ツタ。拔齒ハ順調ニ了ヘタ。所ガ入院三日前子供ハ口内ニ腫瘍ヲ認メ主治醫ハ直チニ手術的所置ヲ勸メタ。其ハ左側下顎ノ乳犬齒ト6歳白齒トノ間ニホヽ鴨卵大ノ堅キ腫瘍ヲ見、之ガ齒槽突起カラ茸狀ニ位置シ下部組織トハ強固ニ癒著シ、其表面ハ所々潰瘍ヲ形成シ一部暗紫色ニ、一部ハ暗紅色ニ變色シ觸ルレバ出血シ、淋巴腺腫脹ナク、無痛無熱、X線所見ハ口外側方撮影ニヨルト腫瘍ノ著明ナル擴張ヲ見、兩小白齒ノ胚種ハ強度ニ相互ニ壓迫サレ腫瘍ハ茸狀ニ兩者ノ間カラ發育ス、下顎骨體ノ上縁ニ不鮮明ナ境界ヲ亙ク認メ得ル内撮影ニテハ腫瘍ノ骨部ニ於ケル骨梁構造ガ6歳白齒々冠部ノ高サ迄達シ骨梁ハ放線狀ニ排列ス。

手術：傳達麻醉ノモトニ變化セル齒槽突起ノ切除ト共ニ腫瘍ノ除去ヲ行ビ此際腫瘍ノ擴ガリガ白齒胚ヲモ拔去セバナラナカツタ。骨及ビ軟部組織缺損部ハ「ヨードホルムガーゼ」テ「タソボン」シ經過正常ニ治癒シタ。組織學的ニハ所謂巨大細胞肉腫型ノ「エプウリス」テ所々ニ新鮮ナル出血竈及ビ多量ノ血色素アリ。

注目ニ價スルハ本例ハ外傷の原因ニヨリ「エプウリス」ガ僅カ3、4ヶ月テ鴨卵大ニ急速ノ發赤ヲ來セルコトト主トシテ骨樣構造ヲ有セシ事デアアル。(中村)

保 存 療 法

金鑲造、金鑲嵌、四分ノ三金冠、鑲造金冠及

ビ鑲造根冠ノ作製ニ對スル齒牙ノ方法

的準備。膨脹鑲造法。

Der Goldguss. Methodische Vorbereitung der Zähne für die Herstellung von Goldeinlagefüllungen, Dreiviertelkrone, Gusskronen und gegossenen Wurzelkappen. Das Expansionsgussverfahren. Dr. Max Rosenzweig. 1932, Urban und Schwarzenberg, Wien.

本書ハ71頁、126圖、3表ノ臨牀家ニトリテ最も好伴侶トモ稱スベキ、懇切ヲ極メタル記述ニナル。著者ローゼンツワイク氏ハオーストリーヨリアメリカ合衆國ニ學ビ、同所ニ於テ鑲嵌法ニツキテ研究シ、其ノ大家トシテ知ラレ、Zeitschrift für Stomatologie 1930, Heft 4, 11 及ビ 12, Zahnärztliche Rundschau 1930, Nr. 25, 1931, Nr. 5 及ビ 11 並ビニ本雜誌ニ紹介シタル Zahn-

ärztliche therapeutische Kartothek ニ其ノ研究ヲ發表シ居レリ。

本書ハ六章ヨリナリ、緒論、鑲嵌、4分ノ3金冠、鑄造金冠、鑄造根冠及ビ膨脹鑄造法ノ順序ニ詳述セリ。

鑲嵌ノ章ニ於テハ主トシテ第二級窩洞、MOD窩洞、第四級窩洞ニ就キテ、其ノ形成法ヲ詳述セリ。氏ハ窩洞形成ヲ五階段ニ分ツ。即チ、1) 隣接面ノ傾斜平面形成、2) 窩洞ノ嚙面ノ輪廓形成、3) 隣接面ノ輪廓形成、4) 嚙面窩洞完成、5) 隣接面窩洞完成ト五階段ニ分チ、「カーボランダムポイント」、「ダスク」、「ホイール」、「フィッスーレンバー」、珐瑯質斜斷器、「ハッチェット」等ヲ如何ニ用フベキカ、形成ニ際シテ如何ナル點ニ注意セザルベカラザルカヲ述ベ居レリ。氏ノ用フル印象採得法ハ直接法ヲ用フル場合ハカーノ綠色「モデルワックス」ヲ用ヒ、分離劑トシテハ石鹼水或ハ流動「パラフィン」ニ數滴ノ「メンタ」油ヲ混ジタルモノヲ用フ。MOD窩洞ニ於テハ主トシ間接法ヲ用フ。カーノ「モデリングコンパウンド」ヲ豫メ作製シ置キタル銅帶環中ニ入レ、之ヲ齒牙ニ壓接シテ窩洞ノ印象ヲ採得シ、用圍ニ紙筒ヲ作り之ヲ石膏中ニ埋没シ、定法ノ如ク「アマルガム」ヲ充填ス。又印象採得時ニ同時ニ S. S. White ノ「ピンクベースプレートパラフィンワックス」ヲ以テ豫メ「バイト」ヲ採得シ置ク。此ノ「バイト」ノ印象上ニ、前ニ作り置キタル「アマルガム」模型ヲ置キテ石膏模型ヲ作製スルナリ。此ノ模型上ニ於テ定法ノ如ク蠟原型ヲ調製シテ鑄造ヲ行フモノナリ。

4分ノ3金冠ノ章ニ於テハ、其ノ形成法ヲ五段ニ分チテ詳述セリ。1) 舌側ヨリ見ラルル輪廓形成、2) 隣接面及ビ切端ノ研磨、3) 隣接面及ビ切端ニ保持溝形成、4) 舌面研磨、5) 窩洞壁及ビ面ノ研磨之ナリ。氏ノ窩洞ハヴェスト氏4分ノ3金冠窩洞ヲ改良シタルモノニシテ、窩洞ニ齒齦面即チ「シルダー」ノナキヲ特色トシ之ヲ補フニ切端及ビ隣接面ニ保持溝ヲ附ス。犬齒ニ於テハ舌面ニ更ラニ切端溝ニ平行ナル小ナル保持溝ヲ附シ、小白齒ニ於テ咬合面ニ遠近心保持溝ノミナラズ之トT字形ニ交叉スル溝ヲ附スルコトアリ。蠟原型採得ニハ浸漬法ヲ用フルコトヲ推賞セリ。「インレーワックス」ヲ金屬鍋ニトリ豫メ 75°C 位ノ溫湯中ニ入レテ溶解シ、之ニ豫メ作製シ置キタル「アマルガム」ノ窩洞模型ヲ浸漬シテ、此ノ上ニ 0.2mm 位ノ厚サノ「ワックス」ノ層ヲ作り之ヲ丁寧ニ形成スル方法ナリ。

第四章ニ於テハ先ヅ鑄造金冠ニ對スル形成法ヲ四段ニ分チテ詳述セリ。1) 咬合面ノ研磨、2) 隣接面ノ研磨、3) 頰面及ビ舌面ノ研磨、4) 保持溝ノ作製之ナリ。保持溝トシテハ咬合面ニ十字形ニ附スル法、咬合面中心ニ淺キ窩洞ヲ作ル法、二級窩洞ノ如キ階段ヲ作ル法等ヲ舉ゲ夫々ノ特色ヲ説明セリ。蠟原型調製ハ間接法ニ依ルコト前述ノ如シ。金量ヲ節約シ、金冠ヲ輕量ナラシメンガ爲メニ二重ノ方法ニ依リテ蠟原型ヲ作り鑄造スレバ中空金冠ヲ作製シ得ベシ。又架橋義齒ノ齒臺トシテ用フル場合ハククリース、ザルツマン氏鑄造金冠ヲ應用スル時ハ螺旋金冠ヲ調製スルコトヲ得。

著者が最も力ヲ用ヒテ敘述セルハ膨脹鑄造法ヲ述ベタル第六章ナリ。著者ハマイヤー及ビメー

グズ兩氏ノ考案ニナル電氣膨脹鑄造器ニ暗示ヲ得テ圖ノ如キ「ガス」膨脹鑄造器ヲ案出セリ。此ノ鑄造器ヲ用フル時ハ常ニ一定溫度ノ下ニ鑄造ノ操作が行ハルル爲メニ、從來述べラレタル不可避ノ收縮ヲ或程度マテ豫防シ得ト云フ。(檜垣)

齒牙ノ弛緩動搖ノ病理竝ニ治療法

Pathologie und Therapie der Zahnlockerung. Prof. Dr. R. Weber.

Fortschritt. d. Zahnheilk. 1932, L. 5.

齒槽膿漏ノ研究ノ結果各人各種ノ名稱ガ作ラレタ爲メニ迷語ガ非常ニ多クナツタ傾向ガアル。モラール、ミューラー、コーエン等ハ Alveolaryporrhoe ナル語ヲ用ヒ、ゴットリーブ等ハ diffuse Atrophie 及ビ Paradentalporrhoe ナル名稱ヲ用ヒテ居ル。ウェスキューハ totale Atrophie 及ビ Partialatrophie トニ分類シテ居ルガ totale Atrophie テハ何處マデガ疾患カ、何處マデガゴットリーブノ生理的萌出ト見做スベキデアルカハ確タル意見ハナイ。著者ハ totale Atrophie テ何等ノ盲囊形成ナク、極メテ徐々ニ經過スル根ノ露出ヲ來ス場合機能的ニ平均シ居ル時ハ病的ニアラズトスル意見デアル。キャヴァロハ Peririzoclassia ナル名稱ヲ與ヘテ居ル。著者ノ意見ニヨルトゴットリーブ及ビウェスキューノ分類ヲ基礎トシテ次ノ如ク分類シ名稱スルノガ最モ宜イと思フ。

- A 外因性齒牙附近組織疾患
- B 内因性齒牙附近組織疾患
- C 混合性齒牙附近組織疾患

外因性ノモノハ口腔ノ不潔、負擔過重等ヨリ起リ、内因性ノモノハゴットリーブノ瀰蔓性齒槽骨萎縮、ベックスノ榮養不良性骨疾患形ニ相當スルモノデアリ、混合性ハ内外ノ兩因ノ混合シテ